

放射線科紹介

— 迅速で正確、低侵襲な画像診断・治療を目指して —



放射線科 部長 中村 誠治

放射線科は現在医師3名で構成されています。3名とも50歳代になり、高齢化が進んでいます。放射線室(放射線技師22名、事務職員1名)とは表裏一体の関係にあり、総勢26名の大所帯です。

放射線科は地下に隠れて何をしているところがよくわからないと言われる方もいらっしゃるかと思いますが、意外と(?)色々な仕事をしているので、少し仕事の内容を紹介したいと思います。

主な業務

放射線診療はCT、MRI、X線画像、消化管透視、血管造影、核医学検査等の画像診断と放射線治療、IVR、放射線薬品による治療を含んでいます。

画像診断

診断部門では院内の画像診断を主に担当しており、他科の先生方や他院から依頼された各種検査の読影、レポート作成を行っています。

CTは64列、16列MD-CTが各1台稼働しており、短時間で広い範囲の検査が可能です。3次元画像が容易に再構成でき、造影剤を使用したDynamic studyを併用することで、より詳細な画像情報の収集が可能になっています。救急医療でも大いに活用されています。

MRIは1.5T装置が1台稼働しており、脳脊髄疾患、関節・軟部組織疾患、婦人科疾患の診断をはじめ、肝・膵等の腫瘍に対するDynamic study、造影剤を使用しないで胆管・膵管系を描出するMRCP等幅広く利用されています。最近では乳癌や前立腺癌の診断にも高い有用性を確立しています。

血管造影は診断目的の検査だけでなく、肝癌に対する動注塞栓療法も行っています。肝癌動脈塞栓術は消化器内科や外科と協力しながら施行しています。

消化管透視は検査数は年々減少していますが、術前検査やスクリーニングとしての重要性は失われていません。小腸造影検査にも対応しています。

核医学検査は骨、甲状腺、腫瘍シンチ等病変を探し出す検査や脳、心臓、腎等の機能を調べるための検査を施行しています。最近では脳血管障害に対する脳血流シンチや虚血性心疾患に対する心筋シンチが重要視されています。また、このたび甲状腺機能亢進症に対する放射性ヨード内服用法も施行可能となりました。

地域連携

松山市民病院の周辺医療機関から地域医療連携室を経由して種々の検査紹介を頂いております。当院と「地域連携システム」を共有していただいている医療機関には検査当日に画像配信をしています。システムを共有していない医療機関には画像情報を書き込んだCDを返送しています。

放射線治療

当院では最新鋭のリニアック装置(Elekta Synergy)で放射線治療をしています。この装置はX-ray volume Imagingを装備しており、強度変調放射線治療(IMRT)やイメージングガイド放

射線治療システム(IGRT)への発展が可能です。肺癌、乳癌、前立腺癌等への外照射の際、より柔軟な照射野設定ができ、精度の高い放射線治療が可能となっています。乳房温存療法後の乳房接線照射等、多くの症例を外来治療として行っています。

これらの根治治療以外にも、患者さんのQOL改善を目的とした骨転移等の疼痛軽減に対する治療や、脳転移への照射も行っています。

病院改築に伴い、治療部門に続き、来年秋には診断部門も5棟1階に引っ越し、新しい診断機器も導入予定です。

今後も検査、治療はますます多岐に渡り、複雑化するものと思われそうですが、放射線科・放射線室一同、迅速で正確、低侵襲で患者さんのQOLを重視したサービスを提供できるよう努力を続けてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

リニアック装置



放射線治療室入口 →
* 2期工事終了後は、この場所にCTやMRI、X線などの設備が集約され、「画像センター」になる予定です。

← 最前列左から二人目より
中村医師、赤宗明久医師、
近藤由美雄医師、他放射線室スタッフ

